

令和 6 年度
雲南市市政懇談会
報 告 書

開催月日	開催町	会場	参加者数
6月10日(月)	掛合町	掛合交流センター	45人
6月19日(水)	大東町	大東地域交流センター	51人
6月24日(月)	木次町	チェリヴァホール	28人
6月25日(火)	三刀屋町	三刀屋交流センター	27人
6月28日(金)	吉田町	吉田健康福祉センター	23人
7月1日(月)	加茂町	かもてらす	48人
計			222人

政策企画部広報広聴課

令和6年度市政懇談会報告書目次

大東町会場（大東地域交流センター）・・・・・・・・・・ P 1

加茂町会場（かもてらす）・・・・・・・・・・ P 5

木次町会場（チェリヴァホール）・・・・・・・・・・ P 10

三刀屋町会場（三刀屋交流センター）・・・・・・・・・・ P 14

吉田町会場（吉田健康福祉センター）・・・・・・・・・・ P 17

掛合会場（掛合交流センター）・・・・・・・・・・ P 21

令和6年度市政懇談会等に関するアンケート結果概要・・・・・・・・ P 24

財政状況の見通しと今後の大型事業について

Q：質問 A：市からの回答

Q. 合併特例債や地方交付税などの減少が見込まれることに対して、財源拡大に対する施策を教えてください。

A. (市長)

緊急防災・減災事業債が考えられるが、合併特例債は今年度・来年度をもって使えなくなるので、それ以外の有利な財源、措置率の高い起債をしっかりと確保してもらうような取り組みをお願いしている。地方交付税の制度の在り方を国にしっかりと提案していかなければならない。財源の調整をしっかりと図ってもらえるような制度改正を求めている。また、ふるさと納税が現在3～4億位の収入があるが、何とかこれを伸ばして、独自の財源として、様々な活動を充実しようという活動をしている。皆さまに特産品などのご協力をいただければ大変ありがたい。

加茂文化ホールラメール大規模改修工事について

Q：質問 A：市からの回答

Q. ラメールの修繕について、20億かけて改修した場合に、何年もつ見込みか。すぐにまた修繕が必要にならないのか。

A. (スポーツ文化振興室長)

塗装は約10年の保証がついているが、10年しかもたないというわけではなく、細かくメンテナンスすることで10年、20年ともつと思う。雨漏りするようであれば、計画的に修繕していきたい。物価の上昇傾向を見込んだ額であり、これ以上になるということは思っていない。経費節減に努め、なるべく安くあげるようにしていきたい。

その他市政全般について

Q：質問 A：市からの回答

Q1. 旧海潮中学校の跡地利用について、どのように考えているか。

A1. (教育長)

海潮地区の地域の皆さんとの協議がスタートした。地域からの要望も伺っており、海潮小学校が旧海潮中学校に移転するパターンや、小学校の移設と他の施設が入った複合施設などについて考えている。教育委員会である程度の案を出しながら、地域の皆さんと協議し、活用について考えていきたい。

Q2. LD (学習障害) に対する対策が進められているが、もっと長く利用できるようにしてほしい。

A2. (教育長)

雲南市には、「まなびい」という学習に困難さや苦手さを克服するために、子どもに直接アドバイスする機関がある。利用期間を、1年ないし1年半、最高2年の利用と区切っているが、もっと長く利用できるようにしてほしいというご要望であると思う。たくさんの利用希望がある中で、期間を区切っているが、一旦離れても、少し期間が経てば再度利用していただくということも可能なので、ご理解をお願いしたい。

Q3. 独自の子育て支援事業、例えば給食の無償化や小規模住宅団地の造成に取り組んでほしい。人口が減少してもよりよい生活ができる環境の整備をしてほしい。スマートシティにより周辺の集約化で、効率のよい地域に変えていってほしい。

A3. (市長)

人口を何とか増やしていくために施策を行ってほしいというご意見、人口が減っても暮らしやすい地域にほしいというご意見、ふた通りのご要望があると思っている。UIターンの施策は当然行っていかなければならない。子育て支援等独自の施策を講じる場合、財源が非常に問題になってくる。給食費の無償化は、貴重な一般財源を使って、毎年1億円程度必要。高校生の医療費無償化に向けて動こうと思っているが、それは数千万円でできる。給食無償化は非常に難しい。無償化を行っている自治体はコロナ補助金がある期間に限ったものや、生徒数が極端に少ない自治体に取り組んでいる状況であり、雲南市で恒久的な無償化を実施することは目途が立たない。当市では、おいしい給食を提供しており、8市の中で最も負担が低い。そうした取り組みを続けていくことで、国全体での議論を促していきたい。また、住宅施策も重要になってくる。大東町や加茂町は松江市へ通うことができるベッドタウンであるため、住宅団地の整備等もしっかりやっていかなければならない。一方で、社会増を目指しているが、高齢者の方が多いので、人口減少は止めようがない。そうした中でも不自由なく暮らせるように、物流やインフラをしっかり維持する、買い物などの新しい仕組みづくりなど考えていかなければならない。スマートシティ、ロボット、将来的には自動運転など新しい技術を積極的に取り入れて、地域の皆さまの生活の維持を図っていきたい。

Q4. 市内に空き家が目に見えて増えているので、市独自の空き家対策をしてほしい。移住希望者の古民家改修の補助は、対象が子育て世帯のみである。また、北町の空き家が倒れかけているが、市としてどう考えるか。

A4. (市長)

空き家対策には二面性がある。1つは利活用の取り組みであり、市では空き家バンク、空き家コーディネーターの取り組みを進めている。また、地域の皆さまのご協力をいただき、空き家になる前に、どうするのかという話合いができると、次の活用が進むのではないかと。空き家になってしばらく経つと、価値が下がってくる。軽微な改修で済む段階で、流通に乗せていくことができれば、空き家の活用は進むと思っている。ニーズはあるので、それに対する対応を地域の皆さまと一緒に取り組んでいきたい。もう1つが、個人で対応が難しい危険な空き家をどうするかの問題である。危険な空き家であっても、所有者が責任を持って解体なり補修するのが大原則であり、あくまでも個人の財産。北町自治会の空き家の案件についても、現在しっかりと法律に基づいた手続きを踏んでいる。一般的には特定空き家に指定し、勧告し、指導し、それでも直らない場合に限って代執行ができる。着実にそうした手続きを踏んで対応していきたい。

Q5. 再生可能エネルギーによる発電事業を市が経営し、エネルギーの地産地消を求めているかどうか。ソーラーパネル設置のための土地使用に対して、何らかの規制をしてほしい。

A5. (市長)

雲南市では、再生可能エネルギーに積極的に取り組んでいこうと脱炭素宣言もした。また、エネルギーの地産地消の仕組みを作りたいと、大手の企業と協定を結び、どんな仕組みができるか、市民の方にご協力をいただくのかなど整理し始めている。仕組みが整った段階で、ご説明し、皆さまにご協力をお願いしたい。一方で、再生可能エネルギーの

設置によって、地域の環境あるいは安全を脅かされるようなことがあってはならないと思っている。先行自治体での規制の調査や、今回特別措置法が施行され、その中で開発事業者へ義務付けられた内容の実効性を評価しながら、市としてどういう規制をかけるべきか検討していきたい。

Q6. 災害に強いまちづくりを推進してもらいたい。特に地震に対する備えを進めてもらいたい。避難所の共同運営について、地域自主組織がマニュアルを作成することになっているが、どれくらい作成しているか。マニュアル作成については、市が積極的に進めるべきではないか。

A6. (市長)

31地区(加茂町は1地域自主組織で2地区のマニュアルを作成)のうち、25地区が作成されており、6地区が作成中という段階。市の担当者が積極的に関わる中で、ぜひ作成についてご協力いただきたいと考えている。雲南市は地震についてはあまり経験がないが、市民の皆さまの住宅の耐震化についての意識醸成に取り組みながら、地震に強いまちづくりをしっかりと進めていきたい。

Q7. 地場産業を維持して地域の崩壊を防いでほしい。若い人が安心して農業に従事し、地域を守っていける取り組みをお願いしたい。

A7. (市長)

製造業は雲南市の強みであり、地域全体を捉えると、特に農林業の振興は極めて重要だと考えている。食料・農業・農村基本法が改正され、特に日本に大事なものは、1つは食料自給率を向上させようという取り組み、もう1つは、従来産業としての農業を成立させようという取り組みがメインだったのを、今後は農家の定義を拡大し、農村を守る取り組みをしっかりと進めることがポイントとして掲げられている。雲南市としても、農村を守っていく取り組みをしっかりと進めなければならない。今後、農作物の価格調整制度についても検討されており、「肥料の価格が上がっても、米の値段はなかなか上がらない」という構造を変えていこうという動きが国にも出始めている。国に対して、農業がしっかりと成立する環境を整えていくよう訴えていく。雲南市は、地域に密着した農村を守る取り組みを早くから進めてきているが、今後も農業で稼げる環境を作っていきたい。林業についても、お金になる林業を進めていく考えであり、IT、団地化、製材・販売を含めて全体の見直しに取り組んでおり、今後も引き続き進めていきたいと考えている。

Q8. JR木次線の出雲大東駅発着のダイヤと市民バスのダイヤが合っていないので、合わせてほしい。島大の学部などを沿線に誘致してはどうか。

A8. (市長)

子どもの数が減っている中で、大学や専門学校の誘致というのは、かなり難しいが、あきらめてはいない。かなり工夫が必要になるので、まずはご意見として伺う。その上で、公共交通の確保は、特に運転免許を持たない方には重要な案件だと思っている。市民バスのダイヤについては、いかに使いやすくするか、ご意見を承りながら調整を図っていく。より便利なものであれば、木次線に乗っていただけるという思いを持っているので、木次線を守っていく取り組みを進めていく。

Q9. 大東体育文化センターの施設建て替えてを早くしてほしい。夏は暑くて困っているので、空調を整備してほしい。

A9. (市長)

跡地については、具体的な計画を持っていない。現在、公的な利用ができるか調査中である。今後、地元の皆さまのご意向を聞きながら、跡地利用について考えていく。また大東公園体育館にも、手を入れていくという考えを持っている。過大なことはできないという中で、地域の皆さまがどのような利用をされるかお聞きし、改修計画を提案させてい

ただきたい。

Q10. 市からの情報発信の種類を増やしてもらいたい。SNS マーケティングのフローを取り入れてはどうか。市の幹部が思いを語る YouTube チャンネルを作成してほしい。20代・30代に発信する情報が少なすぎる。興味のない層に届くように情報発信してほしい。

A10. (市長)

都度、広報を充実するよう指示している。市のテレビ番組が増えたり、インスタグラムなどの SNS をやっていることをお気づきの方はおられると思うが、このようなご要望をいただくということは、まだ十分でないということ。今後も工夫しながら、時代に合った情報伝達を強化していきたい。

Q11. 以前大都市に住んでいたのに、市の幹部と直接お話できるのは貴重な場だと思うが、20代、30代がほぼいない。平日の開催だと若い世代が来にくいと思うので、可能であれば、土日の開催になれば、若い世代の参加も増えて、より活気のある会となると思うので、今後検討いただきたい。

A11. (市長)

大きな方たちでの開催だけでなく、小さなグループでの意見交換も続けている。先日も大東図書館で若い子育て世代の方と意見交換した。ぜひそうした機会があれば、広報広聴課を通じてお話をいただきたい。

Q12. 今から数年前にも、山の木を切ってチップにして燃料にするという話があったが、その後どうなったのか。

A12. (市長)

従来のバイオマス発電は非常に技術的に大きいものだった。外国から輸入したパームヤシを燃やして発電していたが、それでは採算が合わないし、脱炭素の取り組みにそぐわないという結論が一旦出た。その間に技術革新によって、小さな規模での発電ができる再生可能エネルギーの技術が始まったところ。まだ、これをやればできるというものではないが、あきらめずに取り組んでいく。太陽光発電が数年で普及し、逆に普及しすぎたから色んな問題も起きて来ている。色んなものが技術途上であるため、1つ1つ検証しながら、具体化に向けて、商業ベースで踏み込んで検討している。目標を持ちながら、できることをやっていきたい。森林の活用については、チップだけではなかなか儲けにならないので、林業の儲けになる仕掛けを併せて考えていきたい。

Q13. 本日の市政懇談会ではたくさん意見・質問が出て、答弁いただいたが、なかなか書き留めることが難しいので、ぜひ文書化していただき、また参考になりたい。

A13. (市長)

今日の内容を報告書として、まとめる考えである。それにより今日ご参加でない皆さまにも、市の考えなどをお伝えしていきたい。

財政状況の見通しと今後の大型事業について

Q：質問 A：市からの回答

Q1. 市の財政、令和9年度基金が枯渇する。財政コンパクトにすべき。

A1. (市長)

予算の段階では基金を取り崩しているが、節減をして貯蓄は取り崩さないようにしている。今後も財政の改革を進めていきたい。公共施設の廃止は、皆さんの理解を得ながら進めていく。廃止の1つの方法として吉田グリーンシャワーの森のような民間譲渡も行っている。

Q2. 道の駅さくらの里きすきはなぜ整備が必要か。

A2. (市長)

さくらの里きすきは、昼の食事の時間帯に駐車場が不足する。観光客が利用しているのではなく、近くで働いている人の休憩場所としての利用が多い。そのため回転が悪い。今回の整備は駐車場のキャパを確保しこの問題を解消しようというもの。それに合せ様々なニーズに対応した改修を行う。たとえば災害の避難場所とか。

加茂文化ホールラメール大規模改修工事について

Q：質問 A：市からの回答

Q1. ラメールの次の改修工事はいつか。また耐用年数は。

A1. (スポーツ文化振興室長)

今回の改修でラメールは60年持つ予定。現在30年経過しているので後30年持つ予定。実際はメンテナンス次第。30年後は建て替えも検討する。

Q2. ラメールの改修工事は賛成。ラメールは集客力がある施設だと思う。今回の改修によって都市間競争に勝てる施設になって欲しい。

A2. (スポーツ文化振興室長)

改修後は音楽ホールに生まれ変わる。今後はイベント等に活用していきたい。

その他市政全般について

Q：質問 A：市からの回答

Q1. 地域自主組織の運営について。自治会の加入脱退が多い。(自治会の周知に紙でなく) PDF等を利用して運営を効率化するなど負担を軽減できないか。

A 1. (市長) 雲南市は協働のまちづくりを進めてきた。その核となるのが地域自主組織。様々な取り組みを行いながらまちづくりを進めていきたい。ただ地域自主組織は地域によって事情が異なる。個別に対応していく必要がある。
Q 2. 移住定住問題について。若者の雇用の確保。空き家対策をして欲しい。 A 2. (市長) 雲南市の雇用の全体数は確保されている。ただ、人が足りない事業者と若い人が望む業種とのミスマッチがある。雲南市へ（若者が望む）IT業者などを誘致したい。また、若い人には雲南市のさまざまな仕事の楽しさ、地域の働きを理解してもらう取り組みを行いたい。雲南市も子どもの数は減っている。原因を分析しながら改善していきたい。おそらく結婚対策だと思う。しっかり対策していきたい。様々な社会増に向けた取り組みをしていきたい。
Q 3. 宇治川の浚渫。ハザードマップの活用。指定避難所の情報公開。避難所の設置がスムーズに実施されるように。 A 3. (市長) 河川の浚渫については地域要望などで対応。まずは総合センターへご相談を。環境美化は今まで地域の協力を得ながら行っていた。全てを行政でできないことのご理解を。避難所は開設マニュアルを作っていると思う。手順化を図ったり訓練を行ったりしながら設置がスムーズになるよう図っていききたい。指定避難所の情報提供は様々な工夫をしながら行っていきたい。
Q 4. 熊の対応について。 A 4. (市長) 熊は増えている。目撃してから情報を提供するまでどうしても時間がかかる。熊の対策は唯一熊に会わないこと。自分の存在を熊に知らせる。小中学校を含めて地域へ説明していきたい。
Q 5. 大東高校の生徒数の減少について。 A 5. (市長) 寄宿舍は3月末に整備したため、今年度の新入生募集に間に合わなかった。来年度の入学生の確保にスカウトを含めて色々な所に声をかけている。この寄宿舍を活用し生徒が大東高校に入ってくるように対策していきたい。校長先生や大東高校OBにも協力を依頼する。
Q 6. 加茂小中学校も老朽化している。 A 6. (市長) 状況については承知している。危険性という観点でより木次中学校が危なかったので改築を優先させた。
Q 7. 有害鳥獣の抜本的対策を。 A 7. (市長) 今年度から獺期も駆除対象にしており、1年を通じて駆除を行う。サル対策については大型檻を設置して対応している。鹿も昨年度から一斉駆除を実施した。有害鳥獣の対策は、駆除と併せて防除も大事。あきらめず取り組んでいきたい。

い。
Q 8. 運転免許証返納の優遇制度はないか。J R木次線の存続（利用促進?）。 A 8.（市長） 運転免許証返納の優遇制度があるので総合センターへ相談を。J R木次線。今後の在り方については、現状J R西日本がお気持ちを表明されているにすぎない。それに対し、県・沿線市町は廃止のための議論はしないと伝えてある。もし、状況が動けば雲南市も沿線市町としてしっかり対応していきたい。そうならないために、木次線の利活用に取り組んでいきたい。
Q 9. 加茂町の歴史ある文化財をもっと活用をすべき。 A 9.（市長） おっしゃるとおり。インバウンドも含めてしっかりとP Rし、観光客の誘致を図っていきたい。
Q 1 0. 高齢者に対する物価高騰対策や生活支援を。 A 1 0.（市長） 高齢者の健康寿命を延ばし生きがいを持って生活してもらうためには健康づくり対策が必要。行政単独でというよりは市民・団体の皆さんと連携して取りくんでいく必要がある。生活支援については定額減税やその対象にならない人には給付金を支給することとなっており、粛々と進めていきたい。
Q 1 1. 雲南市の総合計画がよく分からない（えすこの反対はえすこにならない?）。 A 1 1.（市長） 考え方を理解できるようにP Rをしっかりと取り組んでいきたい。
Q 1 2. 教員の働き方改革・部活の地域移行は地域やP T Aに丁寧に説明したのか。 A 1 2.（教育長） 働き方改革は、昨年1 2月に県と1 9の市町村の教育長連名で県民の方に周知した。内容は主に次の3つ。①学校での電話対応の時間②登下校については引き続き地域保護者をお願いしたい③教職員が出る会合はできるだけ勤務時間内に。2月には雲南市からこの3つに加えて部活の地域移行をすすめている。雲南市では部活の地域移行及び休日の部活動の合同化を令和4年度よりスタートしている。地域移行の周知については、今年の市報4月号に特集を組んでいる。保護者には昨年の9月に文書により周知している。C A T Vでは昨年1 0月に担当者が説明した。対話では市のP T A連合会で説明した。今後いろいろな機会に説明していく。
Q 1 3. 学校の統廃合と小規模特認校は矛盾するのでどう進めるのか。また統廃合はしないと聞いている。 A 1 3.（教育長） 雲南市の学校。規模の大小それぞれ異なるので、それぞれの特色を生かして進めていきたい。メリットは生かしデメリットは緩和する方向で。地域になくてはならない学校としたい。小規模特認校は市内外を問わず受け入れることで学校の維持ができるようにするもの。現状、児童生徒は減ってきている。小さい中学校では部活動の維持できていない。雲南市全体で好きな部活ができるように取り組んでいる。

Q14. 住宅政策。雲南市は松江市出雲市に近く利便性が高い。住宅用地をもっと増やすべきではないか。

A14. (副市長)

住宅供給は定住対策に有効だと考えている。雲南市は土地開発公社と一緒に住居供給に取り組んでいる。年内に可能性のある土地について優先順位をつけて取り組んでいく。

Q15. 雲南市の聴覚障害者協会より、役場にろうあ者が来た時に手話マーク・筆談マークを付けて欲しい。手話言語・ろうあ者への理解を進めて欲しい。

A15. (市長)

手話マーク・筆談マークについては初めて知ったのでこの場でお答えできないが、手話言語は条例化に向けて進めている。ろうあの方でも過ごしやすいまちづくりを目指したい。

Q16. 雲南市の20周年行事、「出張！なんでも鑑定団in雲南」だけか。

A16. (市長)

「出張！なんでも鑑定団in雲南」だけではない。来週は全国史跡整備市町村協議会雲南大会、8月28日には木次小学校でラジオ体操を生中継で実施する。他にも色々と進めている。

Q17. 高齢者は楽な生活を送っていない。給料上がったのもごく一部の企業。働き方改革によって地方は疲弊している。住んでいる人が笑顔で過ごす施策に取り組む必要がある。どうしたらいいかしっかりと考えていただきたい。大胆な行政改革が必要。速水市長は平成17年には財政非常事態宣言で緊縮財政に努め、平成24年まで基金もたまり借金も大幅に減った。何か行動をしなければ変わらない。(雲南市は)地縁の強いところがあるが、公共施設の廃止や学校の統廃合など、雲南市に本当に必要なものはなにかを見極め取り組んで欲しい。一方で、新しい事業をどんどん取り組んでいく必要がある(ゴミ処理場など)。市長も県職を辞して市長になった強い思いがあるはず。今までできなかったことを先頭に立ってやっていただきたい。

A17. (市長)

市政については少しずつ軌道修正をしつつ取り組んでいる。たとえば賃金水準の問題。委託料や指定管理料は今まで上がっていなかった。しかし今回賃金を上げることにした。これをするために従来のやり方を変えたので色々と意見をもらった。また、グリーンシャワーを民間に譲渡することでより施設の活性化を図った。この事業は必要かということは常に議論させていただいている。皆様のご意見を聞きながら取り組んでいきたい。時間はかかるが一步一步進めていきたい。行革というのは、市民の皆様にも痛みを与えるものだと思う。税金・使用料を上げる、補助金をカットするなど。市民の皆様のご理解を得、影響を見ながら進めていきたい。

Q18. 今までのことを肅々とやり、これからも肅々とやるというのなら石飛市長でなくて誰でもよいのでは(意見)。

Q19. 前教育長から地域自主組織へ小中の一貫について名前を付けてほしいとの依頼があった。依頼があったので地域で真剣に考えたが名前を決めることができなかった。なぜなら名前を決めて何になるのか整理できなかったから。(名前を決めることができなかったことを伝えたが)それ以後、教育委員会から何も話がない。なんのためにこんなに苦労させられたのか分からない。一度投げかけておいて途中で止めるのか。教育委員会の問題はこれだけではない。働き方改革、部活動の地域移行について。先ほど住民へ説明したと言われたが、住民は皆知らない。働き方改革も国から降りてきたことは承知している。しっかりと地元で説明する必要があるのでは。一方、市民には浸透していないこの改革を先生方はどんどん進めている。説明不足のため本当に取り組んでいいのかと感じる。

A 1 9. (教育長)

小中一貫については第4次の基本計画に策定されており令和2年度から取り組んでいる。加茂は小中学校が1校で取り組みやすいのでお願いした。名前付け(学園名)をつけるのは一体感を醸し出すニックネームというイメージ。中身をしっかりと伝える前に名前付けをお願いしたことにより地域の人からどうということかとの不審がられた。今やっていること、何を一貫にして何を連携するか、何に取り組んでいるかについて説明を重ね名前付けをお願いしたい。ご指摘の件は理解している。働き方改革、部活動の地域移行の住民への説明が足りていない件について。これについては先ほど自分の説明が足りていなかった。文書や放送をして終わりということではなく色々な場面を通じて説明していきたいということ。

Q 2 0. 雲南市は1人家族が何軒あるのか。私の住む自治会も20軒のうち5軒は1人暮らし。そのうち空き家になる。ある1人暮らしの家庭では不燃物がずっと(家に)投げてある。松江市は民生委員の方が一人暮らしの世話をしているらしい(不燃物の処理とか)。

A 2 0. (市長)

今すぐには分からないが高齢者の独居が増えていること把握している。

Q 2 1. JR 運賃等半額助成(「木次線でGo!」)について。いざ自分でプランを立ててみたらかなりの金額になった。補助金10万円ではとてもではないが足りない。(意見)

財政状況の見通しと今後の大型事業について

Q：質問 A：市からの回答

Q1. 人口減により地方交付税が減る。

A1. (市長)

地方交付税が今後将来どうなるか今後の景気など正確に見通すことが難しい。基金の取り崩しが無い方向で考え、財政の健全化に向けた取り組みをしっかりとしなければならない。一方で市民サービスのレベルも急激に変えられない中でふるさと納税などを活用し地道に取り組みながら健全な財政にしていきたい。

Q2. 道の駅について。他地域の人気のある道の駅を参考に人が集まるような道の駅を考えて。現在の道の駅の駐車スペースを拡張する必要があるのか。

A2. (市長)

駐車場のスペースの問題に関して、きすき道の駅は昼食時や休日、イベント開催時には満車状態であり、レストランなどの利用が進まない現状がある。このような現状を解決するためには駐車場を拡張していく必要がある。今後、災害時には車中泊での活用ができるような、ある程度広い駐車場の確保や物資の集積場など必要であるとの考え方で整理している。人気のある道の駅のような大きな投資は出来ていないが、ソフト事業として道の駅の活性化としての取り組みを進めている。商品開発や店のレイアウトの変更も含めて人が集まるような道の駅にしていきたい。

加茂文化ホールラメール大規模改修工事について

Q：質問 A：市からの回答

Q. 廃止という選択肢はなかったのか。また、アスパル、チェリヴァホールの改修計画は今後あるのか。

A. (スポーツ文化振興室長)

年間利用者数 6 万人と市内で最も利用がある交流施設。音楽ホールとして市外、県外から高い評価を受けており、また、劇団公演として質の高い文化を市民に提供している。市の基本方針として、新規建設ではなく、現在の施設をより活性化していく方向で向かっている。今後も改修により施設を維持しながら音楽ホールとして整備を進めていく。ご理解をいただきたい。

その他市政全般について

Q：質問 A：市からの回答

Q1. 木次中学校の建設について、検討期間が短いのでは。もっと時間をかけて検討すべき。

A 1. (教育長)

令和 5 年から検討委員会を立ち上げ 5 回にわたり検討したが様々な意見があり、現地建替えとなっている。その後、木次町内 5 か所で説明会を開催。積雪時の自動車の通行、生徒用の階段などの問題があり、除雪、生徒用の階段への手すりの設置などの要望があった。そこも含めて検討していく必要があるが、校舎の老朽化が激しく改築を急ぐ必要がある。ご理解をいただきたい。

Q2. 新規企業の参入について。その企業とどう関わりを持つのか。若者の雇用の場となるのか。

A 2. (市長)

若者の働く場をできるだけ確保していくことは重要である。一方で雇用のミスマッチもある。有効求人倍率は高いが、そこに就く人が少ないという現状がある。働く場の多様な価値観がある中で働くことに対する考え方が少しずつ変化していくような就業の場を確保していく考え。また、就業の場には外国人の方など一緒に働くことも増えてくる。様々な価値観をもった方と共生していけるような人権施策もしっかりと進めていく。

Q3. 少子化に伴う学校の統廃合について市としてどのように考えているのか。

A 3. (教育長)

学校の統廃合については、市の基本的な考え方として、子どもたちは地域で学び、地域の力で育てていただくことを基本にしており、積極的な統廃合は考えていない。少子化については、どのような方法で学校を残すのか、どのような方法で教育を進めていくのか今後しっかり検討していきたい。

(市長)

大規模校、小規模校でも変わらず同じ水準の教育ができるよう I C Tなどを活用し小規模校のデメリットをなくしていく。また小規模校の中学校では部活動が成立しない実情にあるが、地域移行によりどの学校に行っても好きな部活動ができる環境を整えていくように進めている。このような取り組みの中で小規模校、大規模校それぞれの良さの環境の中で子どもたちを育てていく考え。今ある環境の中で子どもたちの教育環境を整え、選択肢を広げていく方向性で実施している。

Q4. 今後の人口減について。本当に「えすこ」な雲南市になるのか。

A 4. (市長)

人口が減少する中で人材不足が発生するのではないかと、地域の活力が失われるのではないかとという問題。しばらくの間、高齢者が多い雲南市では人口減少が避けられない。しかしながら人口が少なくとも皆さんが生き生きと活動し、そして安心して生活ができる環境を作っていくことが行政の責任であり皆様方と共に歩む未来である。そのような中、人材育成、確保は重要。地域自主組織を含めた活動の中で今後将来を担う人材を育てていきたい。人口が減っても生き生きと暮らし続けられる街を目指すべきと考える。

Q5. J R木次線問題について。横田落合間の再構築協となりそう。木次線全体として対応すべきと思うが。4月より「あめつち」が運行している。各駅で乗降できるようにすべき。

A 5. (市長)

「あめつち」については、J Rとずっと協議してきた。今後このようなご意見をいただきながら、より「あめつち」を育てていくというスタンスで J Rと協議し、より魅力的な列車となるようにしていきたい。また、木次線を含めローカル鉄道が日本においてどういう位置付けとなるのか、まずは国政としての話を前提としながら利用を促進して維持を図

っていききたい。存続について廃止ありきの議論には明確にノーと申し上げる。

Q 6. 新しいごみ処理施設はどうして必要か。

A 6. (市長)

ゴミの処理施設には3種類あり、①焼却ごみ、②リサイクル施設、③焼却後の焼却灰の最終処分場の施設がそれぞれ必要となる。③現在の焼却灰の最終処分場はいずれ満杯となり、処分できない時期がわかっている。焼却施設も耐用年数がきており、このような事態から早期に脱却することとリサイクルや環境問題が重要なため、しっかり対応できる処理施設が必要である。建設については、雲南市と飯南町、加えて奥出雲町と共に広域的な施設として整備するため検討を進めている。事業費については、百数十億円の規模となる見込みである。

Q 7. 市長として今後、地域自主組織をどうしていく考えか。

A 7. (市長)

地域自主組織は雲南市と同じ歴史を歩んでおり、雲南市を形成する大きな要素として、また雲南市と共に育っていると考えている。今後も継続していく中で地域によって人材の確保や収益など差があり、一律にどうするということとはできないが、体制を維持しながら協働のまちづくりを進めていききたいと思っている。あとは地域自主組織の個別事情などを伺いながらより良い選択肢を考えていかなければならない。方向性としてはこれからも地域自主組織と歩んでいきたい。

Q 8. 中山間地域の水田の活性化・農地を守る政治をしてほしい。

A 8. (市長)

食料・農業・農村基本法が改正となり食料の国内自給率の向上、食料安全保障の確保が大きな柱である。日本のこれからの自給率の向上を図っていく上で農地の4割を占める中山間地域の農地の維持はしていかなければならない。基本的に農業を守ることは①農地を守る、②人を守る、③地域を守るの3つが揃わなければ農業は出来ない。農地あるいは農業そのもの、そして農村を守ることをこれからも国に訴えていく。雲南市としても中山間地域を活性化し、農地を守る政策を進めていく。

Q 9. 雲南市役所近くに住宅団地を。

A 9. (副市長)

雲南市は住宅供給について、市と土地開発公社一体となり取り組んでいる。市がこれから生き残るためには定住対策が非常に重要であり、どのような住環境を創るのか若者を呼び込むうえでも重要な政策である。公社では今後10年間の住宅供給の在り方を検討している。

Q 10. 久野川が災害に強い川になってほしい。過去に町部が浸水。またハザードマップ上では町部が水没エリアとなっている。

A 10. (市長)

災害に強いまちづくりは今後もしっかり取り組んでいく。一方で市内ではハザードマップ上では水没しないエリア及びイエローゾーン、レッドゾーンとなっていないところは大変少ないのが現実。そのような中、当然、河川改修などを要望していくが、雲南市では避難所の在り方など地域自主組織と避難所運営についてマニュアル化をしている。ソフト的な工夫をしながら災害の被害を減らす取り組み、災害のないまちづくりは着実に進めていきたい。

Q11. 斐伊プールは利用が多く、プールの改修工事を。

A11. (教育部長)

市営プールについては、地域自主組織へは周知済であるが、木次、寺領プールが壊れている。木次プールについては水が溜まらない状況。プールの耐用年数は一般的に40年。木次町内のプールはすべてほぼ50年経過している。斐伊プールも48年経過。加えて近年、熱中症アラートが頻発している。屋外プールを使用する場合は看護施設が必要となっており、今年度は一般利用開放を取りやめる判断をした。斐伊プールの改修を改めて内部で早急に検討を進めていく。

Q12. 下熊谷トンネル照明が暗い。

A12. (市長)

県管理となっており、市から県へ伝える。

Q13. 8市のうち、雲南市のみ2050年に消滅可能性自治体との報道あり。人口減に歯止めをかけていただきたい。

A13. (市長)

消滅可能性自治体という名前であるが、自治体は住民が住んでいる限り消滅はしない。あたかも消滅するかのような考え方がナンセンスと思っている。ただ今回の統計で雲南市では人口流出が課題であるといまでも認識している。今後も人口社会増の取り組みをしなければならないと考えている。

Q14. チェリヴァホールは防災拠点として重要な施設である。有事の際に施設内の駐車場利用や商業施設から食料が調達できるような体制を。

A14. (市長)

検討の必要がある。詳細は今後検討するが、避難の在り方や必要であれば商業施設との協定締結などの取り組みができるよう検討し進めていきたい。

Q15. 雲南市の人口を増やすまちづくりのために

①SNSを活用し世界への情報発信と世界からの情報収集により産業の発展を目指しては。

②高速道路を活用した大規模な企業団地を造成し老若男女が住める地域にしては。

③市内3高校の高校魅力化による定員オーバーをするような施策を。

A15. (市長)

①SNSを活用しているが、認知できていない現状である。発信の仕方やICTを活用したまちづくりなど工夫をする余地はある。

②加茂神原企業団地2期のB工区は土砂の搬出が終了しており、整備に向けて今後進めていかなければならない。

(教育部長)

③県下全域の傾向として中学校を卒業し、地域内の高校に進学する割合は6～7割程度。その他は(農林高校、工業高校などの)専門高校に進学する。大東町からは三刀屋高校、出雲方面の高校や松江南方面の高校へ行きやすく選択肢が広いことがあり、大東高校の進学率が35%という数字ではないかと分析している。市としては3校(大東、三刀屋、掛合)堅持が大切であると考えている。重要なことは「地域内の生徒が地元高校に残ること」と「他地域から呼び込む」この2つである。今後も入学者確保に向けて高校と市が一緒になって取り組みを進めていきたい。

財政状況の見通しと今後の大型事業について

Q：質問 A：市からの回答

Q1. 合併20年になり、すべての施設を維持できるのか？施設の修繕予算はどうか？

A1. (市長)

公共施設等総合管理計画を策定している。各論になると、施設の存続を願う声があり、地域の理解を得るのは難しい。理解を得て統合を進めていきたい。修繕予算を補正等で確保し、個別対応をしている。予算がないからできないという理由ではなく、どうにか対応する方法を検討していく。

Q2. 旧町ごとで偏りがあるのではないかな。

A2. (市長)

合併し、ひとつにまとめる10年間、その後地域ごとのチャレンジを伸ばす10年で20年となった。今後は地域の特性の違いを残すべきで、町部と周辺部と違いがある。格差と言われる部分を極力感じられないようにするべきで、それぞれの地域にあった施策が必要。

加茂文化ホールラメール大規模改修工事について

Q：質問 A：市からの回答

Q1. ラメールの雨漏り箇所は把握しているか？

A1. (スポーツ文化振興室長)

雨漏りの主な原因は、コンクリートのひび割れ、ガラスの部分の建付け部分。原因を特定しているので、重点的に改修する。

Q2. 材料費高騰により予算超過になったら。

A2. (スポーツ文化振興室長)

物価上昇率をある程度勘案した予算としている。全体事業費を21億。このうち床暖房費については削減が図れたため、現在、全体事業費を19億7,900万円を目安にしている。

Q3. 安価な工事を

A3. (スポーツ文化振興室長)

部分改修で対応予定。今後も都度見直しを行い、全体経費の圧縮を図る予定。

Q1. 農村部の女性定着と未婚者の結婚支援

A1. (市長)

少子化対策は結婚対策。出会いの場を作る取り組みをしているが効果を発揮するのは難しい。将来への不安をどう取り除くのか。国と一緒に少子化対策をしていく。農村部の若い女性の転出はより深刻。個別事例の積み重ねが大事で、農村地域で過ごした若い女性のニーズは高く、事例の積み重ねが大事。

Q2. 地域の活動をどう維持するのか。地域自主組織の活動継続、担い手の問題

Q2. (市長)

今後も地域自主組織を中心とした共助の取り組みをしていく。自治会未加入、人材不足による担い手不足の問題は認識している。この問題は地域ごとに違っている状況のため、一律に対応するのは難しい。地域自主組織をどう維持していくかについて、それぞれの地域とよく話し合う。地域共生社会に沿ったまちづくりがこれから大切になってくる。地域を担うであろう人材の育成をしていく。

Q3. 公共交通 高齢者の移動支援について。出雲空港からのアクセスが悪いが。

A3. (市長)

鉄道、バス、タクシー等ある。鉄道をどう活用していくか大事。バスとタクシーの運転手不足は課題。バスダイヤの見直しをし、地域内交通を広げていく考え。ライドシェアの活用等免許返納後の高齢者の移動支援を検討。出雲空港から雲南市への移動については県知事に要望する。

Q4. 道路愛護作業は負担である。

A4. (市長)

昨年度よりシルバー人材センターへの委託に関するものも対象にした。今年度は草刈り機のレンタルも始めた。負担軽減を検討していく。

Q5. 獣害被害は地域では大きな問題になっている。

A5. (市長)

猪の駆除に対する補助は、年間を通じて実施できるようにした。サルの際も準備し、群れごと捕獲できるよう実施している。

Q6. マイナンバーカードは個人情報漏洩が心配。

A6. (市長)

マイナ保険証にもなる。カード自体にデータは入っていないので安心。若い方の定住には、DXに関する整備も必要。

Q7. 空き家対策について。

A 7. (市長) 今年地域おこし協力隊（専門職員）を入れた。空き家の活用等今後も地域とともに対応していく。
Q 8. 学校の生徒、児童数の減少について。 A 8. (市長) 学校の統廃合は考えていない。中学校の部活動は小規模になりできない状況がある。学校の部活動から地域スポーツへ（地域移行）。どの学校へ行っても、好きな部活動ができるように、小さな学校と大きな学校の教育の差がないように。通学困難な子どもたちへの支援もできるので、教育委員会に相談を。
Q 9. 総合計画 何を変えるのか。 A 9. (市長) 国の動向に注視し、地域を守るために変える。外国人の受入れ、DX等多様化に対する変化。
Q 10. 働く場を確保して欲しい。 A 10. (市長) 働く場は有効求人倍率を見るとある。しかし、若い方が選んでいない状況。キャリア教育を進め、若い方へのアピールが必要。働きたい職場との需要と供給のマッチング。
Q 11. たたら製鉄、JR木次線。 A 11. (市長) インバウンドにつながると良い。
Q 12. えすこな雲南市はあれもこれもと感じるが。 A 12. (市長) 選択と集中が大事。若者の定住対策を柱に、いま必要なものを選択して集中して実施していく。
Q 13. 懇談会の資料は事前に欲しい。 A 13. (市長) 次回検討したい。

財政状況の見通しと今後の大型事業について

Q：質問 A：市からの回答

Q. 財政について。経費削減の努力、地方交付税は今後も大丈夫か。

A. (市長)

大幅な施設見直しも必要。優先度の高いところからやらざるを得ない。最終的に国全体の話になる。東京一極集中を是正する制度として交付税制度は重要。

加茂文化ホールラメール大規模改修工事について

Q：質問 A：市からの回答

Q1. ラメール大規模改修で顕在化していない不具合（隠れた破損箇所）が改修後に発覚する恐れはないか。

A 1. (スポーツ文化振興室長)

事前調査して修繕する。目視で見えない部分はドローンも使う。また、足場を組む段階で発見されることも想定している。

Q2. ラメール大規模改修後は、より一層子どもたちのために、音楽会やミュージカルを見せてほしい。

A 2. (スポーツ文化振興室長)

現状、雨漏りで実施できない音楽活動等がある。改修後はその点が解消されるため、今まで以上に音楽活動やミュージカルができるようになる。

Q3. ラメール大規模改修は、音楽ホールとしてか、演劇ホールとしてかどのような利用目的で改修するのか見えない。

A 3. (スポーツ文化振興室長)

市内で一番利用率が高い施設。音楽ホールとしての利用が多い。音楽ホールの確保のため。

(市長)

チェリヴァホール、アスパルとあるが、役割に違いがある。

その他市政全般について

Q：質問 A：市からの回答

Q4. 婚活について。

A 4. (市長)

頑張っているが難しい。「島根はっぴーこーでいねーたー（はぴこ）」もあるが。結婚数が少ないことが課題。出会いの場を作りたい。

Q5. 地域自主組織の体制強化と担い手確保について。 A5. (市長) 20 年近く地域づくりを牽引していただいております、引き続き市との協働によるまちづくりができるようにしたい。担当部局と担い手確保の検討をしています。
Q6. サルなどの有害鳥獣対策について。 A6. (市長) 田井地区でサル捕獲の大型檻を設置し、複数捕獲できた。この取り組みを拡大したい。イノシシは通年駆除とした。狩猟期でも駆除できる。
Q7. 給食費無償化について。 A7. (市長) 無償化する自治体が増えているが、財源はコロナ交付金だ。お金がないとできない施策だ。国が財源を確保すべき。雲南市は給食費が安く、地元食材をたくさん使っている。
Q8. 草刈り、影切、道路側溝掃除などの生活環境の維持について。 A8. (市長) 市民の皆さんのご協力で成り立っている。全部を公共でやるのは不可能。 少子高齢化でできなくなっているのは承知している。高齢者だけの自治会に対して、シルバー人材センターへの地元負担に対して、一部助成を始めた。また、ハンマーナイフモアを1台購入し、無償レンタルすることも始めた。
Q9. 介護保険施設の経営安定化、介護予防について。 A9. (市長) 新型コロナで介護予防活動が下火になった。認知症予防などは大事だ。よした福祉会（ケアポート）で活発に取り組んでもらっている。
Q10. 地域医療の充実について。 A10. (市長) 生活のためには医療、学校、職場が大事で、診療所が大事と認識している。市立病院と民間クリニックが連携している。掛合診療所では医療行為できる看護師が、TVカメラを通じて診療している。市立病院を中心に地域医療を保ちたい。
Q11. 社会増減の減少数が良くなっているとのことだが、人口減少に対して相対的には良くなっているとは言えないのではないか。 Q11. (市長) 高齢者数と出生数との差から、人口減少は避けられないが、生産人口年齢の確保が大事。10年～50年先に人口が均衡になるよう目指す。

Q12. 雲南市も女性の役職を他市に先駆け増やしたらどうか。 A12. (市長) 市役所は部長級が2名いる。今後も女性が活躍する場を増やす。
Q13. 市道の停止線、白線、ガードレールや思いやり駐車場について。 A13. (市長) 停止線の引き直しは計画的に実施する。横断歩道は公安が担当、市からも伝える。思いやり駐車場は、施設整備時に併せて検討したい。
Q14. 学校遊具について。 A14. (教育長) 遊具は計画的に整備し、数年内には全て整備する。
Q15. 学校敷地内の記念木(樹)の整備について。 A15. (教育長) 植えられた方(地域)の思いも大切に、学校と連携して整備したい。
Q16. 中学校の数について。 A16. (教育長) 市内900名の中学生、6つの中学校がある。各校の特色、メリットを最大化しデメリットをカバーしたい。部活動を地域移行し希望の部活動ができるようにしたい。
Q17. 放課後子ども教室のスタッフ不足について。 A17. (教育長) 子ども教室の仕組み、実施場所が工夫できないか協議している。
Q18. 市職員の接遇について。 A18. (市長) 不快な思いをさせることもある。ご助言いただき、改善したい。
Q19. 市政懇談会の説明内容が身近ではなかった。 A19. (市長) 6町統一テーマで実施した。アレンジすると時間もかかる。やり方を考えたい。
Q20. 森林管理保全対策について

A 2 0. (市長) 森林譲与税を活用し、取り組みたい。
Q 2 1. I ターンで住宅を探すのに苦労した。 A 2 1. (市長) 移住者向けの家が少ない。空き家の活用を進めたい。地域のご理解、ご協力が必要。空き家情報あれば、地域で議論していただきたい。地域おこし協力隊も配置し取り組む。
Q 2 2. サル被害対策について。サル捕獲檻を設置していただき、12 頭駆除できたが、木次町へ檻が移動設置された。田井でのサル捕獲檻の継続設置を望む。 A 2 2. (市長) 担当部署には伝えている。何とかしたいと思っている。
Q 2 3. 吉田の玄関口「稲わら工房」では、土産販売していたが、閉鎖となった。瑞風バスや観光客の観光案内所がなくなった。隣接する公衆トイレの管理はどうなっているか？また、敷地に植栽があり、大きくなって、地域の方からも道路カーブがわかりにくいとの意見をもらった。全部伐採してはどうか？ A 2 3. (市長) 稲わら工房は民間譲渡となった。吉田の玄関口であり、民間の活用計画を確認したい。民間活用まで空白期間はあるが、より良い形にしたい。公衆トイレは市のもの。市で管理する。木の件は担当より伝えさせる。

財政状況の見通しと今後の大型事業について

Q：質問 A：市からの回答

意見・質問なし

加茂文化ホールラメール大規模改修工事について

Q：質問 A：市からの回答

Q. ラメールについて。資材高騰の影響あるが予算規模は大丈夫か。

A. (市長)

懸念される事項はあり否定はできないが、やり方を工夫しながら進めたいと考えている。また、早期発注しリスク軽減しながら進めたい。

その他市政全般について

Q：質問 A：市からの回答

Q1. 草刈り、道路河川の維持苦勞している。

A 1. (市長)

高齢のみの自治会であればシルバー人材センターへ委託できるようにした。すべて市でやるにはコストが大きいため地域の皆さんの協力を得ながらどう維持していくか工夫を続けている。今年度は市で貸し出し用の草刈り機 1 台を購入した。機械化が進めば作業負担の軽減につながると考えている。

Q2. スクールバスについて。

A 2. (市長)

バス、公共交通の充実が高齢化が進む中で重要なことと考えている。ただし、バスの定期運行はコスト的な問題があり非常に難しい。デマンド運行検討している公共交通が解決できれば中山間地域が抱える多くの課題も解決できるものと思っている。

Q3. 農業 個人農家への支援について。

A 3. (市長)

中山間地域直払い制度の充実を国に求めている。食料・農業・農村基本法においても「農村を維持する」という点が法律に明記されているので、農業振興とともに地域の維持という観点でも考えていきたい。有害鳥獣対策も上限を設け

ず、実験的取り組みも含め進めてきている。成果も見えてきているので全地域への拡大も検討していきたい。集出荷センターの取り扱いについてはJAと協議中。

Q4. 学校 部活動、小規模校の統合 掛合分校の考え方、体育館のことについて。

A4. (市長)

今の小中学校配置は変えないことを基本に考えている。部活動など1校では維持できない場合は地域移行を模索。雲南市は県内でも取り組みが進んでいる。小さな学校のデメリットをなくしながら、小さいからこそできることを生かしていく。吉田中学校、掛合中学校では小規模特認校制度をR7年度から導入することになっている。掛合分校に体育館が無く小中学校の体育館を利用しているが、無理が出ている。掛合体育館建て替えに向け調整している。場所等は後日相談させていただく予定だが、順調に進めている。

Q5. 住宅団地の整備について。

A5. (市長)

住宅団地の整備については必要との意見と入居者がいないのではとの両意見がある。大規模な団地を作っても難しいと判断しているが、ニーズがないわけではない。受け皿がなければ地区外へ出ていかれることになる。小規模な団地の開発について土地開発公社で検討、計画している。並行して働く場の確保も必要。その中に農業林業もあるといいと思っている。

Q6. 掛合のまちの振興について。

A6. (市長)

合併して市になったが、それぞれの地域が持っている歴史・特性がある。掛合といえばこれというものを見つけていきたい。行政主導ではなく民間の力が必要。農業を基本としつつ、田部竹下酒造のように新たなものも生まれている。皆さんと意見を交わしながらしっかり検討していきたいと考えている。

Q7. Wi-Fi、携帯不感地域の解消について。

A7. (市長)

総合センターに相談してほしい。

Q8. 公共施設等総合管理計画に関すること。箱モノを解体し未来の負担を減らすべき。

A8. (市長)

公共施設のZEB化(※)は重要と認識し計画策定している。総論は理解を得られていると思っているが、ポイントは各論、その施設をどうするかと考えている。利用者や周辺意見により合意形成を図りながら推進していきたい。
※省エネ対策により一次エネルギー消費量を削減した上で、再生可能エネルギー等の導入によりエネルギー収支をゼロにすることを目指した建築物。

Q9. 市全体でみると転入は改善しているとのことだが、掛合町はどうなのか。

A9. (市長)

人口の社会増がみられるのは加茂町、三刀屋町。それ以外は転出超過が続いているのが現状。周辺地域においては個別

具体の人材確保対策が必要となる。例えば、地域おこし協力隊の導入やワークアラウンド雲南の活用、新規就農者の確保など。掛合にもU I ターン者いる。地域の評判がその方たちの口コミで伝わっていく。地道な取り組みが重要。すべての地域があきらめずにやっていくことが必要。知恵を絞らせていただく。

Q10. 上下水道の維持について。

A10. (市長)

人口減少の中で維持は難しくなってくると思っている。特に水道はなくなると生活できないため、人口が減少したとしても何としてでも維持していかななくてはいけない。基本的には水道料金で賄うものだが、水道料金も市民が生活できるレベルでなければならない。浄水場や処理場の広域化等によりコストを抑え維持していく。最終的には国への要望も必要となることもある。

Q11. ふるさと納税について。

A11. (市長)

年間約4億の寄付がある。恒常的な経費には充てず、チャレンジ事業等の財源として活用している。これまでなかなか投資できなかった部分に活用し取り組みを進めている。

Q12. 働く場所の確保について。

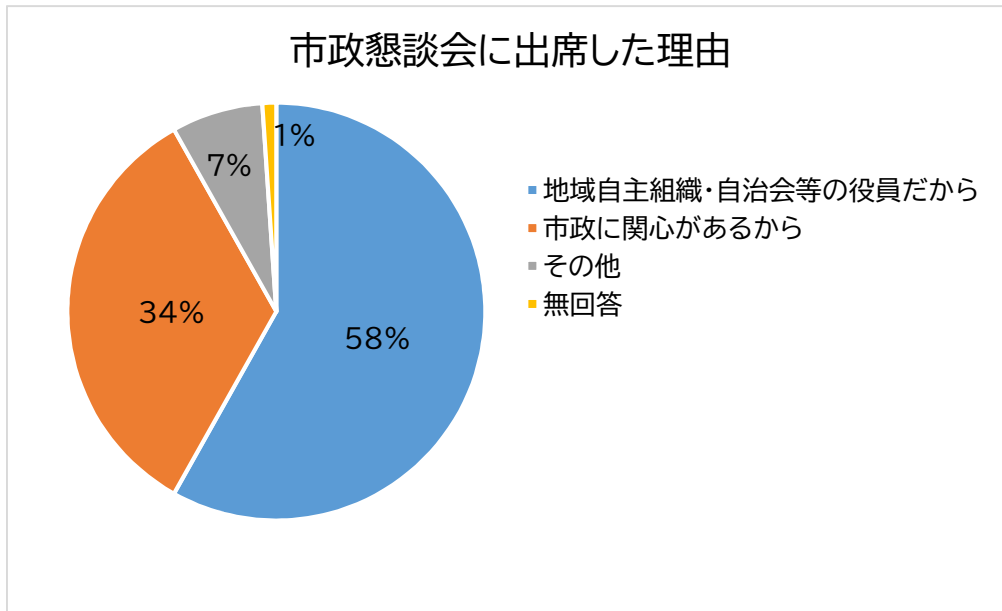
A12. (市長)

有効求人倍率をみると働く場所自体はある。ミスマッチが生じているのでそこを解消していく。キャリア教育を推進する中で若い子たちに将来を考えるきっかけにしてもらいたい。すぐに成果がでるものではないので、まずは雇用のミスマッチをなくしていければと考えている。

令和6年度市政懇談会等に関するアンケート結果概要

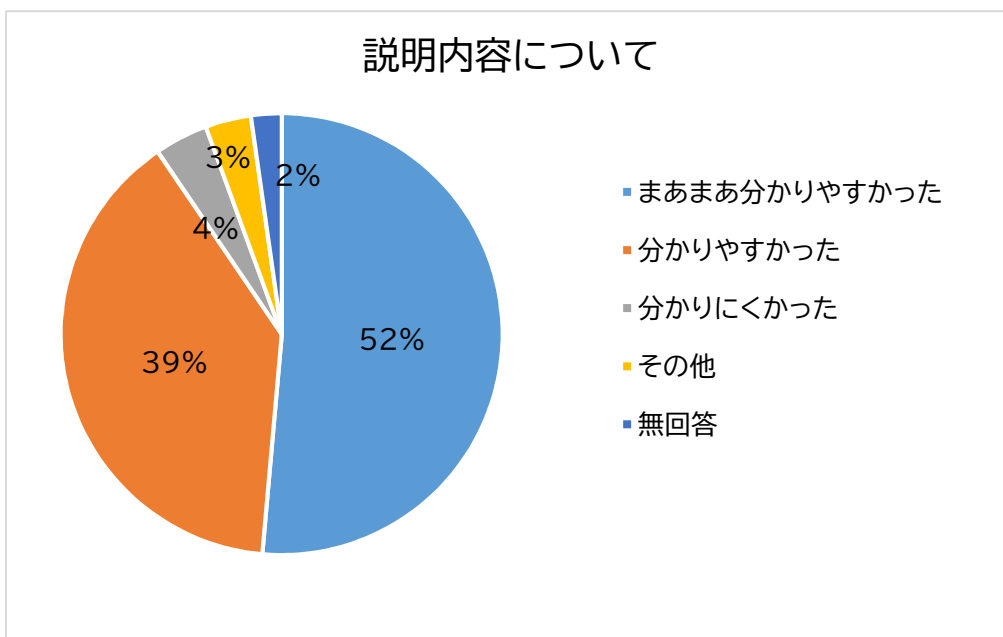
市政懇談会の会場で参加の皆様にご記入いただいたアンケート結果の概要です。
いただきましたご意見等は、今後の市政懇談会などの参考とさせていただきます。
ご協力ありがとうございました。

○アンケートの回収状況(回答総数177)



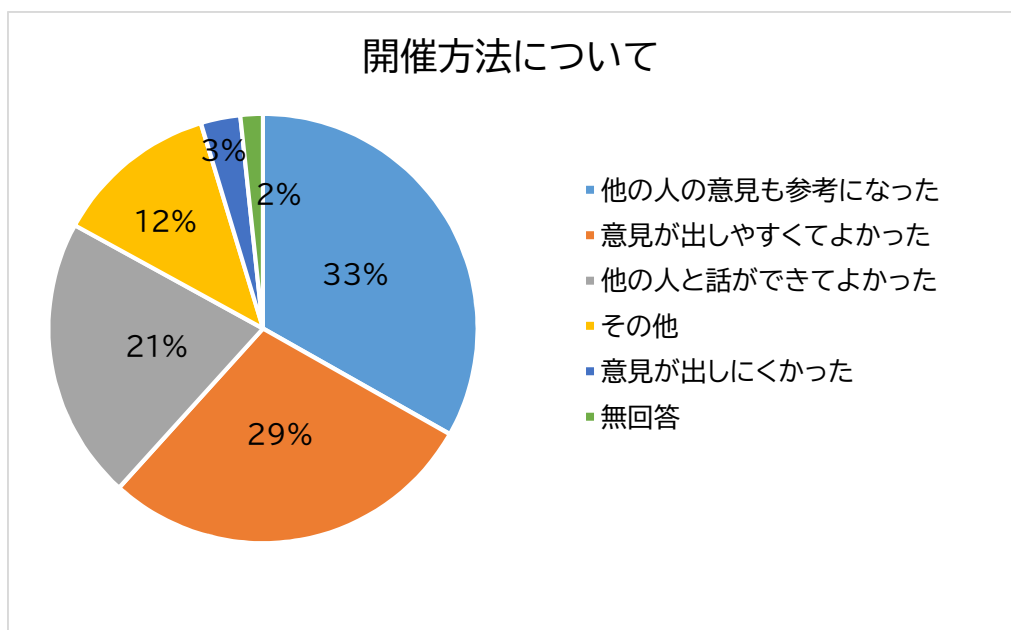
《その他意見・自由記述》

- ・人の話を聞いてみたい
- ・知り合いに誘われた
- ・その他の意見（3件）



《その他意見・自由記述》

- ・説明内容が不足している（2件）
- ・開催地域の課題を重点的に懇談したほうが良い
- ・ラメールの改修について資料の案を認めさせる方向の説明に過ぎなかった
- ・その他の意見（2件）



《その他意見・自由記述》

- ・多くの意見を聞けるスタイルで良かったなどの意見（3件）
- ・意見・提案カードの記入に関する意見（8件）
- ・意見交換に関する意見（5件）
- ・参加者が限られている、少ないなどの意見（6件）
- ・手を上げて自分の口で問うべきなどの意見（4件）
- ・その他の意見（1件）

令和 6 年度市政懇談会の開催方法について

令和 6 年度市政懇談会は、これまでの開催方法を一新し、「参加しやすく、意見を出しやすく」をめざして、5 年ぶりに開催しました。

＜当日のタイムテーブル＞

時 間		項 目
19:00		開 会
19:05	15 分	市長あいさつ 「財政状況の見通しと今後の大型事業について」説明
19:20	10 分	「加茂文化ホールラメール大規模改修工事について」説明
19:30～	15 分	説明内容や地域課題全般についてテーブルごとに意見交換し、「意見・提案コメントカード」に記入
19:50～	20 分	「コメントカード」を回収し、総括回答
20:10～	15 分	意見や回答に関するご意見（口頭）
20:25		副市長あいさつ
20:30		閉 会